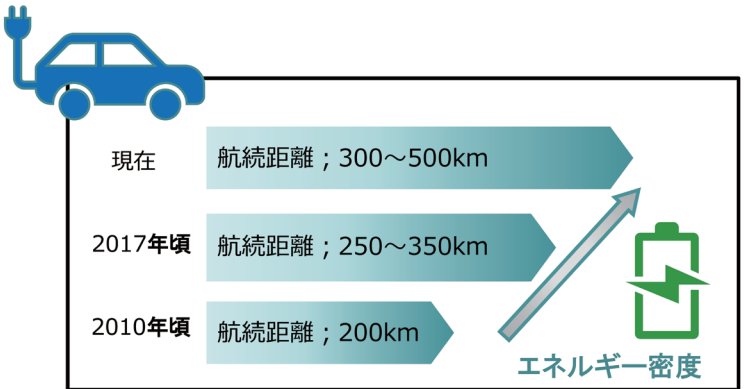
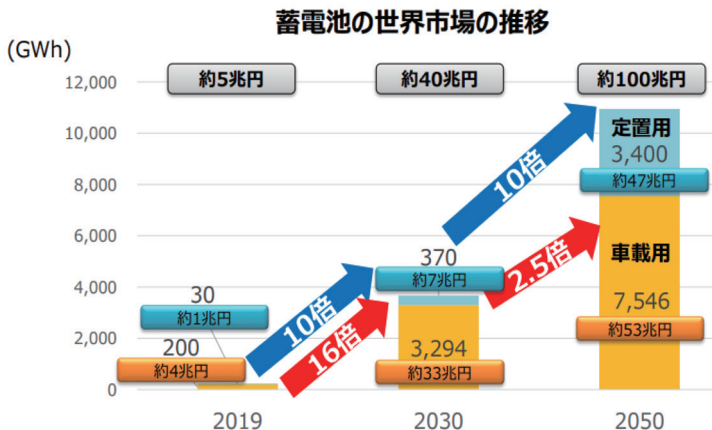


## 資源・環境課題を抱える中で持続可能なモビリティ社会を目指すには エネルギー密度ではない超長寿命のメリットとは

### 大きく伸長する EV 世界の現状と課題

EV市場の爆発的な拡大とともに、蓄電池の需要も大きく伸長している  
市場拡大、競争激化に伴って、益々進む高エネルギー密度化要求



(出典) IRENA、企業ヒアリング等を元に、経済規模は、車載用パック（グローバル）の単価を、2019年2万円/kWh→2030年1万円/kWh→2050年0.7万円/kWhとして試算。定置用は車載用の2倍の単価として試算。

→ 山積する課題（資源・環境、安全、コスト）現実化

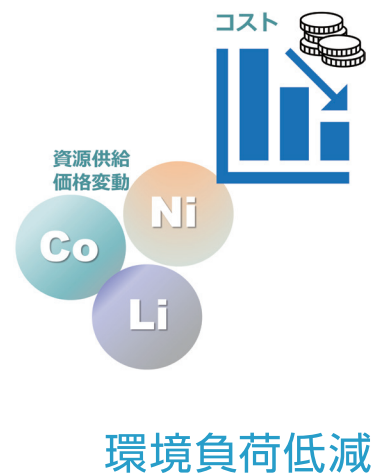
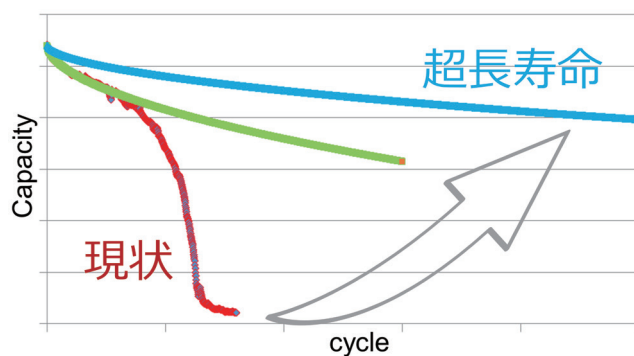
### 超長寿命電池が目指すものとは ～持続可能なモビリティ社会～

資源・環境に配慮し、「経済性」と「利便性」を両立

1つの電池を長く活かし続ける／フル活用する ⇒ 長く、安全に、使い切る  
エネルギーよりも寿命重視 ⇒ 資源抑制、安全サイド、コスト抑制



### 超長寿命電池 (従来の5倍以上)



寿命に特化した材料開発、制御による寿命向上

材料開発／電池開発とシステム開発の双方の側面からアプローチ